



令和2年7月九州豪雨災害において、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

終わりの見えない COVID-19 (新型コロナウイルス) の感染拡大の中、不安な日々が続いております。「with コロナ」新しい生活様式へと変遷していく世の中で、私たちが今すべきこと・できることを冷静に実践していきたいと思っております。

- 令和2年8月
- 医療・介護・福祉ガイドブック荒尾
- 改訂版を作成・配布いたしました。
- ぜひご活用ください。



医療・介護・福祉
ガイドブック荒尾

あらお健康手帳

お持ちの方はご提出下さい



お持ちでない方はお気軽にご相談下さい

- 血圧・体重など日頃の体調管理に
- 救急時の大事な情報伝達として
- おくすり手帳として使えます
- 手帳を使って「人生会議」してみませんか？



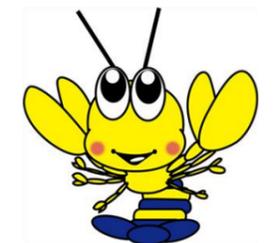
荒尾市在宅医療連携室 在宅ネットあらお

TEL 0968-57-9350

〒864-0004 荒尾市宮内 1092-18 <http://zaitaku@arao-med.or.jp>

◆あらお健康手帳 デザインについて◆

本手帳は、地域医療連携を目的に開発されたツールであるが、そのデザイン（構成と運用）は世界的にも例がないものである。バインダーに冊子を融合させるという一見不合理なデザインに見えるが、これにより利便性と拡張性が一挙に向上することになった。バインダーと冊子というありふれたデザインであるが、それゆえ汎用性も高く、保健医療以外の領域でも発想次第で様々な活用のできるデザインになったと考えている。



「あらお健康手帳」 利用方法と可能性について

特長1 世界初！疾患ごとの手帳をひとつに

日本の糖尿病手帳は、全国共通の規格で運用されているが、多くの地域医療連携パスはそれぞれ規格が異なっており、複数疾患（特に5疾病すべて）の情報が統合された手帳は、世界的にも前例がないユニークなものである。

特長2 本人同意による関係者間での情報共有

利用者が関係者に手帳を積極的に開示する仕組みは、名寄せされたパーソナルデータを活用することへの同意となり、医療・保健・福祉・介護の多職種間でその情報を共有できる。その結果として、利用者本人はより上質な社会サービスを受受できることとなる。

特長3 人生手帳としての汎用性・拡張性

30カ国以上に輸出され続けている母子健康手帳から終末期のあり方を記す人生会議シートまで、利用者自身がアレンジし、全てのライフステージにおける健康情報をまとめた人生手帳としての拡張性がある。また、児童期から青年期、成人期の記録などへの汎用性も有している。

特長4 デジタル拡張性

荒尾市のスマートシティの取組においては、熊本県のくまもとメディカルネットワーク等と連携を図りつつ、スマートフォンなど個人端末であらお健康手帳を運用することも検討しており、紙のアナログ媒体とICTなどデジタル媒体を補完的運用することで、災害にも強い地域連携体制の構築を目指している。

令和2年8月末現在で、あらお健康手帳

の登録者数は261名です

荒尾市在宅医療連携室 在宅ネットあらお

荒尾市宮内 1092-18(荒尾市医師会敷地内)

TEL:0968-57-9350 FAX:0968-57-9605

<http://zaitaku.arao-med.or.jp>

ホームページにも載せておりますのでご覧ください

担当:青木 浦